

府立鴨沂高等学校校舎等整備に係る意見聴取会議 結果概要

平成25年 8 月 28 日
管 理 課

- 1 日 時 平成25年 8 月 13 日 (火) 13:30～16:50
- 2 場 所 府立鴨沂高等学校 1 階 校長室
- 3 出席者 別紙「出席者一覧」のとおり (傍聴者 6 名、報道機関 3 社)
- 4 委員等発言概要

主な説明及び発言の概要

○事務局からこれまでの耐震診断調査結果等について説明

- ・平成16年度の耐震診断で本館棟のIs値は最小値0.16であったことから、通常工法（鉄骨ブレース設置・耐震壁増設等）により教室等の使用に支障が生じない範囲で補強検討したが、補強後IS値が0.43となり府教委が目標とする補強後IS値0.75を満たすことができなかった。このため、次年度以降、更に高度な診断と構造解析、制振や免震改修を含む耐震改修の可能性を検討したが、大規模工事かつ事業の長期化が見込まれる免震工法でしか耐震改修ができないとの検討結果となり、これらのことを踏まえて改築を判断した経過等を説明。
- ・これらの調査・検討内容について、京都大学防災研究所の中島教授から「耐震診断等は適切なもので、大規模地震に備え府立学校の耐震化が急務な中、改築により生徒の安心安全を遅滞なく確保しよとする判断は妥当。」との御所見をいただいております。他に地震工学や防災学の専門家から「花折断層による地震を考慮すべき場所にあり、通常工法による強度型補強は適するが制振改修は不向きな建物である。」、「ハザードマップの震度7のエリア内にあることから、震災時の生徒等の安全確保はもとより、御所の横に位置する避難所として地域の意見も聞いた防災拠点の整備が必要。」との意見も聞いていることを説明。

○京都府立鴨沂高等学校既存建築調査報告書についての説明

- ・府教委から業務委託した既存建物調査の結果について、京都府立大学の大場教授から建築履歴、現存施設の特徴、建て替えを前提とした部分保存（地下通路や外観意匠の継承）の考え方について説明。

○要望書提出者から趣旨説明

- ・各団体から要望書に基づき要望内容に関する趣旨を説明。

○保存要望者からの意見

- ・改修後の耐震性能が十分でないのは南側の棟だけで、正面のみ残す等の一部保存も可能ではないか。一箇所最小値があるだけで全体を壊すのはおかしい。
- ・外壁内部に耐震ブレースを設置することで外観意匠を保てるのではないか。通常工法の一つだけの補強を考えるのではなく他の工法も検討すべきである。

○上記意見に対する委員及び事務局からの説明

- ・耐震診断では北棟、中棟及び南棟の3棟に分割して診断を行い各棟毎に補強前後のIs値(各値追加説明)を持っているが、本校舎はコの字型で南・中・北の各棟が揺れが互いに干渉しないようにする空間が無いことから構造的に一体の建築物となるので、各棟の中で最小となる値が建物全体の耐震性を示す数値とな

る。各棟に多数の鉄骨ブレースで補強を行っても一部で補強後IS値0.7を上回るが、南棟3階部分にIS値0.43があるため建物全体としてはこの値となる。

- ・外壁内部へのブレース配置は、教室を狭くするため支障がある。また、補強計画はスタンダードな耐震ブレースで検討した結果であるが、詳細設計では更に補強箇所は増えてファサード部分にも影響が出るものと理解している。

○保護者からの意見

- ・既に仮校舎に引っ越して工事が始まろうとしているこの時期に、何故、解体・保存について議論となるのかが正直分からない。
- ・震災で子どもの命が奪われるようなことはあってはならない。建替・保存のどちらが良いのか私たちは分からないが、今いる子供や今後入学する子ども達が少しでも早く安心・安全な学校に通えることを第一に進めてほしい。
- ・改築反対と言われても具体的な案で示してもらわないと分からない。また、保存するならその意味を子供達に伝えて受け継いで行けるようにしてほしい。

○校長からの意見

- ・大地震の危険もある中、校舎の安全確保はここで生活している生徒や学校職員にとって喫緊の課題。スピード感を持って対応してほしい。
- ・現校舎が保存できても、エレベータ等バリアフリーの対応やICTを活用した授業等今日的な教育の充実が図れない。
- ・今までの鴨沂高校スピリットは、今後もしっかりと受け継いで行きたい。

○外部委員の意見

- ・いつの時代のものもスタンダードとして復元すべきかを考える必要がある。
- ・安全性の確保は大前提であるが、同時に鴨沂高校の歴史を作ってきた志なり文化といった伝統を継承するには、過去を復元するといったことより、未来を創って行ってこそ初めて伝統となって引き継がれるものだと思う。
- ・手段としてモノを残すのもよいが、むしろ本校に関わる景観とか風景などを通して、そこで生活した子ども達の経験や感情などが継承され思い出せるようなシーン等を保存することが重要である。デザインの対象は人間体験でモノではない。こうした新しい保存の仕方として鴨沂方式を考えるべきではないか。
- ・コンクリート造の近代建築を使い続ける上で、コンクリート自体の質が大事で、力学だけではなくマテリアルとして化学者も一緒になった検討が必要。
- ・保存要望書を出されている方から、個別の建物に応じた残し方等について、是非とも具体的な提案をいただきたい。

外部委員によるまとめ及び今後の進め方

- ・改築か保存かの二元論でなく、鴨沂の新しい未来について関係者が一丸となって様々な議論をしていく中で、第3の道を探すべきである。
- ・限られた時間の中での議論となるため、既存建物の特徴等や設計における基本的な考え方は共有した上で議論を進めることとしたい。
- ・事務局が予算議論のベースとなる保存・再生等の素案を示しているが、あまり限定せずに、解体か保存かも含めて提案してもらうようにすれば良い。
- ・早く設計者を決めて、設計業務の中でワークショップ形式等により、生徒や保護者、周辺住民の方、各団体など様々な立場から御意見をいただきながら、ハード・ソフト両面で具体的な議論を進るべきである。

5 今後の予定

9月5日(木)に第2回意見聴取会議を開催
議題：業者選定に係る提案内容の条件 など